

地域医療の充実

先日、針崎町に平成32年の開院を目指して大学病院の建設が決まりました。これまで市南部には総合病院がなく、病院設置は本市にとって長年の懸案であり、選挙公約にも掲げたとおり市長就任以来、積極的に病院誘致を進めてきました。

現在、救急患者の多くは岡崎市民病



岡崎市長
内田 康宏

院に搬送され、年間9千台を超える救急車が駆けつける状況です。新病院は、入院・手術にも対応できる二次救急病院として、365日24時間体制で救急患者の受け入れを行うことができます。市民病院に集中している救急搬送の負担軽減を図るとともに、これまで周辺自治体に頼っていた、南部・西部地域の救急医療を担ってもらえると考えています。総合医療に対応できる大学病院の進出により、市全体の救急医療体制の充実や高度な先端医療も期待できます。市民病院にとっては頼れる弟ができたようなものです。市民病院についても来年度の稼働を目標に救急棟の建設に着手しました（右ページ参照）。

これからも地域医療の一層の充実に努め、夢ある次の新しい岡崎の実現につなげていきます。